

ななむら

第129号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和8年3月1日現在

世帯数：514世帯

人口：男 605人

女 694人

計 1,299人

8年間大変お世話になりました!

今から8年前の平成30年2月24日、照来地区の区長会が開催されました。内容は、前坂本地区公民館長が退任されるということで、後任についての話し合いでした。候補者が何人か上がり、交渉したのですが全て断われました。そこで、区長協議会の中から出そうということになり、私に白羽の矢が立ったのです。お断りをしたのですが、最終的には引き受けることになりました。何故引き受けたのかといいますと、現職時代に温泉地域にも地区公民館が必要だと言いつけてきたこともあり断われなかったのです。

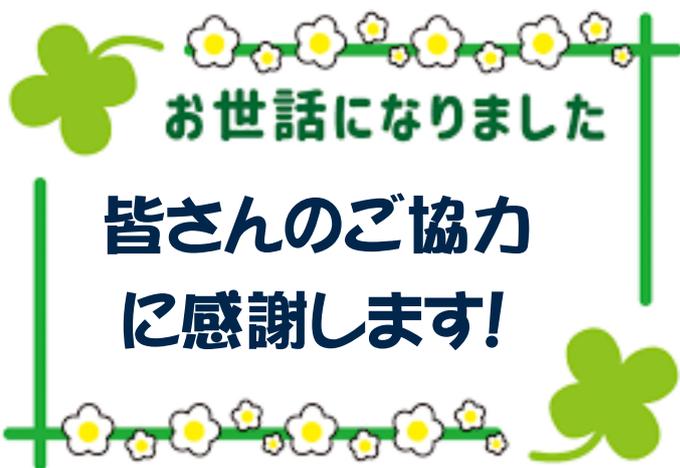
あれから8年が経ちましたが、4年前に体調を崩し、辞めまうと言いつけてきましたが、今日まで後任が決まらず、ずるずると4年が経過してしまいました。いよいよ限界を感じ、この度退任することにしました。

後任が決まっていない中での退任となり、照来地区の皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解をいただきたいと思います。

後任が決定するまでのことについては、現在、照来地区に影響が出ないようにと、区長協議会等で色々検討していただいています。いい方向に進むものと思えます。ご迷惑をおかけします。

この8年間、照来地区の皆さまには、大変お世話になりました。皆さまのご期待に沿えることはできませんでしたが、皆さんがあたたかく見守ってくださったお陰で、何とか終わられそうです。

辞めたからと言って皆さんとのつながりがなくなるわけではありません。これからも今までと同様のお付き合いをお願い申し上げ退任のあいさつといたします。



照来盆地に本格的な春が!

照来盆地の周囲の山々には残雪が見られますが、田畑の雪はすっかり消えました。山々から流れ出る雪解け水の音が春を感じます。

以前にも書いたかも知れませんが、この時季になると「雪解け水は冷たくて♪♪♪」と歌いたくなります。私の青春時代の思い出の曲です。フォーク世代の方はよくご存じのフォークグループ「NSP」の曲です。

それから、最近車を走らせていると、田畑で農作業をする姿を見かけるようになりました。また、2~3人が座り込んで話しをしている姿もよく目にします。しかし、こうした光景は近年少なくなっているように感じます。

私はいつも思うのですが、こうしたほのぼのとした光景は、田舎の良さであり照来の宝だと思っています。

左の写真は、昨年の秋に撮ったものですが、車で通りがかった際良い光景だったので「写真撮らせてください。」とお願いをしたところ「恥ずかしいですがな。」と言っておられましたが、快く撮影に協力いただきました。

皆さん、これから農作業で機械を使用する機会が増えると思いますが、決して無理をされませんように。私を含めて。

右上の写真は、飯野の下（照来川）で撮影したものです。



照来にも集落支援員が！

令和8年度から照来地区にも「集落支援員」が配置されます。「集落支援員」は、過疎地域等の集落の維持・活性化のため、地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウを有する人材が、町から委嘱を受け集落の巡回・状況把握、住民同士の話し合いの促進、これらを通じ必要とされた具体的な取組やその取組主体となる地域運営組織などのサポートを行います。

- ★集落支援員の委嘱日：令和8年4月1日
- ★集落支援員の氏名：委嘱状交付後に公表されます
- ★集落支援員の仕事：上記で説明していることを行いますが、具体的な内容は今後説明があると思います。

照来地区公民館の使用

4月1日までに次期照来地区公民館長が決まっていない可能性があります。

4月1日以降に地区公民館を使用される場合は、当面左記の集落支援員の方に連絡してください。氏名は後日公表されます。



照来の歴史（83）『但馬杜氏』

杜氏（とうじ）とは皆さんご存じのとおり、日本酒造りにおける最高責任者であり、酒造りの全工程を統括する職人を指します。ところで、何故「杜氏」という文字に、樹木が生い茂る神聖な場所の意味がある「杜（もり）」という字が使われているのか疑問に思いませんか？

その答えは、昭和51年11月に発行された「但馬杜氏」にありました。そこには「杜とは、中国の酒の発明者「杜康(とこう)」の性である。」と載っていました。（以下、「但馬杜氏」の史料より抜粋）

また、「但馬杜氏」とは、美方郡の杜氏のことを指し、日本四大杜氏の一つに数えられています（現在は美方郡外の杜氏も含みます）。四大杜氏とは但馬杜氏、越後杜氏、南部杜氏、丹波杜氏のことです。

では、但馬杜氏の起りはいつ頃なのか。元禄（1688～1704年徳川5代将軍綱吉の時代）のはじめという説があります。そして、天保～嘉永の時代（1830～1855年）になると、但馬杜氏の実在がはっきり登場してきます。この時期が第一次活躍期といわれています。

江戸時代末期には「口入屋」という出稼ぎ先を斡旋する職があったようですが、但馬杜氏は酒家の信頼が厚く「口入屋」の介する余地がなかったと記されています。

また、優れた技術を持つ但馬杜氏ですが、大正のはじめ頃は全国清酒品評会で二等に入賞すると組合内では大喜びをしていたそうです。しかし、昭和の初期には優等賞（金賞）を得るようになり、それが戦後になると継続して金賞を獲得するものが出るようになります。但馬杜氏が造る一番よい酒はそのまま日本一の酒である。と言われるようになりました。

明治34年10月（明治44年の説も）には、酒造技術の向上を目的に「美方郡醸酒業者組合」が設立されています。その後、昭和31年「美方杜氏組合」に名称変更。そして、昭和33年6月に「但馬杜氏組合」に名称変更され、現在に至っています。

但馬杜氏は但馬牛と同様世界に誇れる照来の宝です！



照来の年別 杜氏数	年	昭和15年	昭和25年	昭和29年	昭和49年	昭和61年	平成11年	平成15年	平成20年
杜氏数		18人	23人	35人	67人	55人	36人	27人	15人

＜風土の中で生まれた但馬杜氏＞ 「但馬杜氏」史料より

『昔から激しい吹雪の夜、いろりを囲んで草履を作っていた但馬の奥地の人たちは、明日のすばらしい雪明けを待った。長い長い冬である。それだけに人たちはいつも春を待つ希望に胸を膨らませていた。こんな忍従と耐乏の日々が続いた。だがそこに不屈の精神といたわりあい支え合うほのぼのとした人間性も育った。そして春の日の山々の萌える新緑や秋の日溪谷に紅葉する。目のくらむような色彩に感動を覚える心が身についた。こうした中で但馬杜氏は生まれた。』

但馬杜氏の信条に「喜びと感謝のうちに幸せは生まれる」とあります。

＜新温泉町偉人マンガ＞

新温泉町は、町にゆかりのある偉人の漫画を制作する「町偉人マンガ事業」の第3弾として、但馬杜氏組合の設立に尽力した村尾秀一氏（飯野）を中心に「但馬杜氏」を題材とした漫画の制作に着手しました。